

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	40	大学等名	岡山大学
テーマ	テーマⅢ（入試改革）		

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

B：概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革の加速については、本事業における取組により、国際バカロレア（以下、「IB」という）入試が全学的に導入されたこと、英語のみでの履修による学位取得や秋入学を可能とするグローバル・ディスカバリー・プログラムが開始されたこと、実施、評価、PDCA サイクルに必要な学内の事業運営体制が整備されていることは評価できる。一方、中間評価及びフォローアップにおいて、大学として IB 入試の入学者（IB 生）に期待するミッションを明らかにすることという指摘がなされていたが、当該大学は、IB 入試は多様な入試の1つとして位置付け、IB 生には積極的なミッションが設けられなかった。今後、本事業において取り組んだ IB 入試を更なる大学改革の契機と捉え、どのような全学的な大学教育環境の変容を達成しようとするのかより明確にされることを期待したい。

事業の具体的な取組の進捗状況については、「TOK=知の理論」の活動、TOK のワークブックを使ったワークショップの開催、TOK に加えて IB 教育のコア科目である CAS（Creativity、Action、Service）関連の教養教育科目の開講が進められていることは評価できる。しかし、当該大学の申請時の目標である「IB 生（当該大学における IB 校出身学生、IB 修了生、IB ディプロマ修了生を含めた総称）の数を学生定員の5%に拡大する」については、補助期間終了時に0.5%と達成できていないことから、今一度、当該大学における本取組の位置付けを再構築する必要がある。目標と実績が大きく乖離したことについての十分な検証がない限り、事業継続に当たって目標値を現実的な方向に修正したとしても、達成は困難であると考えられる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、当該大学長から、国立大学法人の第4期中期目標・計画期間の終了時までの IB 入試に係る目標として、新たに実現性のある数値を設定する旨の説明がなされたことは、学生、当該大学の双方にとって有益なことと評価できる。同時に、ここまで努力した IB 入試が、制度趣旨が類似するグローバル・ディスカバリー・プログラムや多面的・総合的な入試に埋没しないように努める必要がある。補助期間終了後も、取組が組織的かつ的確・着実に実施され、修正後の目標を達成できるように、さらには現在当該大学で学ぶ学生及び今後学ぶこととなる学生のためにも、より一層の組織的な取組と目標達成への強い意欲の発露としての実際の行動が強く望まれる。

事業成果の普及については、IB 入試の調査・研究面で TOK のワークブックを使ったワークショップの開催等、具体的な成果に結びつく活動が進められていることは評価できる。この活動が、実際の成果として表れるための努力と工夫が求められる。また、IB 入試は当該大学だけではなく、他の国公立大学で多くの取組がなされている。一大学にとどまらず、我が国全体の取組の成果を発信する核となることが求められる。